

わがまち・ふるさとと再発見!

「身近な史跡めぐり」
昔の疫病対策は

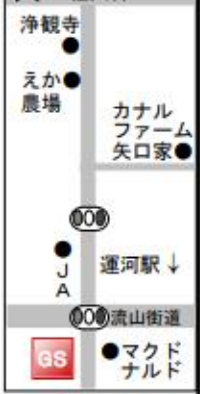
神頼み

業内後

田村哲三



★三社大神



コロナ禍は一向に終息をみませんが、ワクチンのなかった昔の疫病対策はどうしたかという点、ひたすら神仏の加護にすがって来ました。今回はそれらの神仏の中で、古来疫病退散にご利益があるとされた、牛頭天王を祀った神社について述べたいと思います。

牛頭天王はインドの悪神で疫病を流行らす神でしたが、中国仏教では祇園精舎の守り神となり、疫病退散の神となりました。「毒を以て毒を制す」と言うことでしょうか。

◆牛頭天王と八坂神社



牛頭天王社 石塔

奈良時代創建の京都の八坂神社の祭神は牛頭天王で、江戸時代までは祇園社と呼ばれていました。平家物語の「祇園精舎の鐘の声」の祇園社です。祇園祭も疫病退散祈願の祭りでした。慶応4年、祇園社は八坂神社となり、祭神も、幕末ごろから牛頭天王と同一神とされた素戔嗚命になりました。

◆牛頭天王と天王社

牛頭天王を祀った神社は天王社ともよばれ、全国各地にあります。津島市の津島天王社も主祭神は牛頭天王でしたが、明治以降に津島神社となり、八坂神社同様、祭神が素戔嗚命になりました。



◆牛頭天王と天刑星

西深井の三社大神社境内には「津島天王弥五郎殿除厄神御示」の石塔(写真右)があります。これは弥五郎が津島天王社で頂いた御札を石塔に刻み、屋敷神としたものと思われま

長崎の天形星神社も江戸時代は牛頭天王が祭神でしたが、明治以降、素戔嗚命に変わりました。この天形星は、中国の道教では木星のことで、天刑星と書き、疫病退散の星とされています。

奈良県にある国立博物館には「牛頭天王をつかんで食べる天刑星」(辟邪絵(国宝))があります。添え書き

には「かみに天刑星となつくるほしみます。牛頭天王およひその部類ならひにもろもろの疫鬼をとりてすにさしてこれを食す」とあり、疫病退散祈願の星であったことが分かります。

明治以降、多くの天形星神社は改名され、現存は全国に10社ほどしか。長崎の天形星神社は貴重な存在です。西深井の矢口家にも「天行星」の石塔があります(敷地内のため拝観不可)が、疫病除けの屋敷神であったでしょう。柏神社内にも天形星神社の石塔がありますし、桐ヶ谷三郷の小谷家の畑には、牛頭天王社と彫られた石塔があり、近年まで三郷地区の守り神としてお祀りがあったようです。

昔に帰り、八坂神社や天形星神社、牛頭天王社に新型コロナウイルス退散の祈願をしてはいかがでしょう。今回の100号をもって当企画は完結しました。8年余にも及ぶご愛読ありがとうございました。新年からは新しい連載を予定しております。引き続きご愛読願えれば幸いです。筆者